

会 議 録

<会議名称> 令和5年度 第1回岸和田市小中一貫教育推進会議

<開催日>令和5年12月5日(火)

<時 間>16時~17時

<場 所>岸和田市教育センター 1階 視聴覚研修室

<出席者> ○出席、■欠席

(学校関係者)

八幡校長	池内校長	田中教頭	西村教頭	何森教諭	川本教諭
○	○	○	○	○	○

(教育委員会事務局)

片山学校教育部長 (委員長)	松本学校教育課長 (副委員長)	松本人権教育課長	永井指導主事
○	○	○	○

(学識経験者)

山口教授
■

<議題等>

1. 教育委員会挨拶
2. 委員自己紹介
3. 説明
 - ・小中一貫教育推進会議の目的・組織・役割等
 - ・令和4年度小中一貫教育推進会議の協議内容
 - ・各中学校区の取組み状況について
 - ・オンデマンド配信について
 - ・「新たな科」について
4. 意見交換等
5. 今後の予定

<当日配布資料>

- ・岸和田市小中一貫教育基本方針
- ・岸和田市小中一貫教育推進会議 設置要領
- ・令和4年度 小中一貫教育推進会議まとめ
- ・「(仮称) 新たな科」について
- ・小中一貫教育取組み状況一覧
- ・オンデマンド資料「岸和田市小中一貫教育について」
- ・桜台中学校区小中一貫教育推進計画

1. 教育委員会挨拶

【片山委員長】

みなさんこんにちは、学校教育部の片山です。各学校に置かれましては、今年度、来年度の小中一貫教育の本格実施に向けて、準備を進めていただいているところです。ありがとうございます。昨年度の小中一貫教育の推進会議では、小中一貫教育推進計画の様式、そこに何を含めるかという協議、また、新たな科の位置づけ・扱いについてどうするのか、また、小中一貫教育の取組みを先に進めていただくモデル校区の設置ということで、本日会議にご参加の桜台中学校区にお願いしたところです。

私は、昨年度もこの会議に参加いたしました。様々な議論の中で、小中一貫教育を進めていく上のキーワードは、「必要性」だということを参加の方々で共有したと認識しています。

やはり各中学校区で子どもたちの実態、また地域性等を踏まえながら、子どもたちを「めざす子ども像」に向けて何が必要なのか各中学校区で検討していただく。そしてそれを、来年度から取り組んでいただくことが重要です。改めて「必要性」、これがキーワードじゃないかと考えています。

本日は、新しいメンバーの方々を迎えまして、この会議を始めていきたいと思えます。今年度は、すでに各中学校区でさまざま相談や打ち合わせなどを進めていただいております。そういったことも踏まえ、各中学校区の状況、実際に取組みを進めていただいている学校の状況、あるいは進める中での課題、それらを出し合いながら、円滑な来年度のスタートにつなげたいと思っています。1時間という限られた時間ですが、どうぞよろしく願いいたします。

2. 委員自己紹介

3. 説明

【片山委員長】

それでは次第の3つ目、「説明」です。事務局のほうからお願いします。

【永井委員】

まず、本日、会議を設定させていただいた経緯ですが、今年5月、校長会、校園長会にてモデル校区の推進計画をお示しし、各校区で準備を進めていただきますようお願いしました。この間、担当校の指導主事が校区の会議に参加するなど、進捗を確認、ご助言しながら進めてまいりました。多くの中学校区で、大枠ができつつありますので、一度共有し、課題等を整理できたらと考えた次第です。

本会議の目的としては、来年度からの小中一貫教育をよりよいものとしていくため、準備期間である今年度の進捗状況を共有するとともに、課題等を抽出し、今後の取組みに活かしていくということでございます。どうぞよろしく願いいたします。

<小中一貫教育推進会議の目的・組織・役割等>

それでは次第に沿ってご説明させていただきます。

まず初めに小中一貫教育推進会議の目的・組織・役割等についてご説明します。配付資料「岸

和田市小中一貫教育設置要領」をご覧ください。まず推進会議の目的についてですが、本市の小中一貫教育における諸課題とその解決方法などについて、幅広く議論し、本市小中一貫教育を評価・改善しながら進めていくことを目的に、推進会議を設置しております。

組織については、学校教育部長、学校教育課長、人権教育課長、学校教育課指導主事、小学校長会代表、中学校長会代表、小学校教頭会代表、中学校教頭会代表、小学校教員代表、中学校教員代表をもって組織するものとする。委員長を学校教育部長が、副委員長を学校教育課長が担うものとし、委員長が必要と認める時は、学識経験者の参加または助言を求めることができるとなっております。

内容としては、小中一貫教育の学校運営に関すること、形態に関すること、教育課程や指導体制に関すること、教育活動の評価に関すること、施設一体型と分離型における具体的取組みに関すること、その他推進に向けて必要な事項、これらについて審議を行うとなっております。その他については資料をご覧ください。

<令和4年度小中一貫教育推進会議の協議内容>

次に、昨年度の協議内容について、簡潔にご説明します。配布資料「令和4年度小中一貫教育推進会議のまとめ」をご覧ください。昨年度は主に中学校区の推進計画書、モデル校区の設置、新たな科の3点について協議を重ねました。

今年度への引き継ぎ事項として4点、ありますので確認いたします。

1点目は小中一貫教育推進計画についてです。各中学校区でめざす子ども像を設定していくこと。今すでに行っていることや、今後取組みを計画していることを整理していくこと。大きな負担にならないよう配慮し、必要性のある計画とすることなど示されています。

2点目はモデル校区の設置です。今年度、桜台中学校区をモデル校区として進めております。桜台中学校区では、昨年度、管理職の先生方を中心に推進計画を作成していただきました。今年度は、その推進計画に沿って取組みを進めていただいています。資料として桜台中学校区推進計画を添付しています。また他校区での取組みの参考となるように、成果と課題を明らかにしていくとしています。

3点目は「新たな科」についてです。資料2枚目になります。これは総合的な学習の時間等をより探究的な学びとしていくための手引きと想定しています。設置理由は、子どもたちが様々な課題を主体的に解決していく力の育成に向け、小中で系統的に積み重ねていくことが必要なこと。また岸和田を題材にすることで、地域とのつながりの中で、より解決に向けて主体的に取り組むことができる。これらを設置理由としています。

内容については、知識として学ぶのではなく、探究的な学習の進め方・考え方で学ぶ内容とし、小学3年生から中学3年生まで発達段階に合わせて学んでいくことができるものとする。今求められている力を育成できる内容とする、未来の岸和田を担う人づくりにつながる内容とする、岸和田の素材を十分に活用できる内容とするとしています。具体的には、電子データを活用すること。総合的な学習の時間に活用できる参考教材という位置づけで、指導計画に応じて柔軟に活用すること。実施時期は令和9年度以降として、今年度、来年度で「新たな科」の詳細を協議する会議体の設置、教材作成の検討をしていくことになっています。

4点目は、今後の予定です。令和5年度は、モデル校区では推進計画に基づいて取組みを進める。

取組みを進めながら推進計画に修正を加えて、他校区のモデルとなる推進計画を作成する。他の校区では令和6年度から実施する小中一貫教育に向けて、推進計画をそれぞれの校区で作成する。令和6年度は、それぞれの中学校区で推進計画に基づいた取組みを行う。適宜小中一貫教育の担当者が校区ごとに集まって会議をしたり、市内全体での連絡会にて情報交換を行ったりすると予定しています。

<各中学校区の取組み状況について>

続きまして、各中学校区の取組み状況についてお伝えします。別紙「小中一貫教育取組み状況」をご覧ください。後ほど委員の皆様からも、取組み状況等補足していただけたらと思っておりますが、現在、市教委で把握していることを簡潔にお伝えさせていただきます。

岸城中学校区です。来年度の取組みとして、「〇〇タイム」のような短時間グループアプローチを行う予定。自尊感情やソーシャルスキルにターゲットを絞り取り組む。来年1月、中央小学校で講師を招いて合同研修を実施する予定になっております。

光陽中学校区です。学習面・生活面・行事面を中心に共通して取り組んでいく。コロナ禍でストップしていたことを再開していく。生徒指導担当者が定期的に情報共有の場を持つことを計画しています。

野村中学校区です。中学校で実施している「NOMU タイム」という取組みについて、朝陽小学校の職員会議で伝えた。また11月10日の自主公開研究授業に朝陽小学校が参加し、自尊感情とソーシャルスキルの向上、PBSの取組みについて一緒に学んだということです。

桜台中学校区です。今年度モデル校として取組みを進めていただいています。夏休みに小中合同研修として、春木中学校の取組みをみんなで学んだり、講師を招いて「子どもの理解と支援について」一緒に学んだりしたということです。生徒指導部では本日参考資料として配布しています「10の約束」を作成しました。研究部では、それぞれの学校が情報活用能力の向上に取り組んでいることを踏まえ、共通の指標を作ることができないか検討しています。また校区内の学校で実施している研修・ミニ研修をどの学校も参加できるように情報共有しています。オンラインでも参加できるようにできればと考えているとのことです。

葛城中学校区です。読書活動を通じて言語能力の育成やコグトレ等で認知機能の継続した取組み。その他、様々アイデアを出している状況です。来年1月16日に拡大会議を行って、様々なアイデアを実施計画に入れ込んでいき、まずは小中教員がつながることができればと考えていると聞いています。

土生中学校区です。現在、各学校が課題や取組みをそれぞれの学校で整理しているところです。全国学力・学習状況調査質問紙より学力面や生活面での課題を抽出して、それらをめざす子ども像とリンクさせながら、取り組んでいくことを計画しています。今週、指導主事も一緒に参加して打ち合わせを実施する予定となっております。

久米田中学校区です。中学校で実施しているクメロンタイムの実施を計画しています。これも春木中学校や野村中学校で実施しているソーシャルスキルや自尊感情、コミュニケーションスキルの向上、人間関係づくりにねらいをしばった内容ですが、それを小学校に広げていきたい。また、小学校で実施している立腰を中学校に取り入れていきたいと考えています。また研究部の連携も進めていきたいと考えていることを聞いています。

山直中学校区です。先週、小中一貫教育に係る校区会議を設けたと聞いております。それぞれの学校で推進計画を作成して、それをすり合わせていると聞いています。相互授業参観、情報交換等を継続しています。

春木中学校区です。「はるちゅうタイム」という自尊感情やソーシャルスキル、コミュニケーションスキルを高めていくような取組みを校区の柱としてやっていきたいと考えています。1月に小中3校合同の小中一貫教育に向けた研修会を開催する予定になっております。

北中学校区です。8月に小中合同研修を実施しました。小中9年間を見通した発達支持的生徒指導について、小中の教員で学び考えました。10月11月は研究授業を実施し相互に参観。人権教育部会は2学期に担当者が集まり、来年度の取組みについて検討しました。その他、生指部会と研究部会は、3学期に担当者が集まり、来年度の取組みについて検討する予定となっています。全校共有フォルダーを活用し、小中で資料等を共有しています。

山滝中学校区です。生徒指導・人権・学力の3本柱で取組みを進めていくことで計画しています。現在、中心となる取組みについて担当者と検討していると聞いています。

以上、一部分になりますが、各中学校区の取組み状況をお伝えいたしました。

【片山委員長】

今、市内中学校区の取組み状況を報告いただきました。この件について、何かご質問等ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。意見交換の場でもご参加の皆様から取組み状況についてお聞きできればと思います。それでは、次へお願いします。

【永井委員】

<オンデマンド配信について>

次にオンデマンド配信について説明します。

パワーポイント資料「岸和田市小中一貫教育について」をご覧ください。明日よりこのパワーポイント資料をもとに、岸和田市の小中一貫教育の考え方や方向性、推進計画の作成の留意点等について、動画配信を予定しています。市としてどのような考え方で小中一貫教育を進めているのかということや、既に推進計画を作成していただいている校区もありますが、改めて見直す機会ということで、視聴していただけたらと思います。

動画の内容は、令和2年度に策定しました小中一貫教育基本方針を中心に、1. 小中一貫教育が求められる背景、2. 小中一貫教育の目的、3. 小中一貫教育により期待される効果、4. 小中一貫教育でめざす具体的な取組み、5. 今後のスケジュール、6. 小中一貫教育推進計画の作成について。の内容となっております。

明日より2月末まで配信させていただきます。時間は20分程度になっております。ファイル管理にデータを入れますので、多くの先生方に視聴いただければと思っております。

【片山委員長】

これは新たな取組みとなります。今、事務局の方からお知らせがありましたが、この動画を作った趣旨は、何でしょうか？

【永井委員】

小学校、中学校の校長会では、小中一貫教育について市としての考え方や、推進計画の作成に関する留意点などお話をさせていただきました。スムーズに進める上では、教員の皆さんにも小中一貫教育の進め方などについてご理解いただくことが大切と考えています。そこで、来年度から実施する小中一貫教育の基本的な考え方などや、現在の取組みの整理や見直す機会となればなどということもあり作成いたしました。

【片山委員長】

内容が、小中一貫教育の背景、目的、期待される効果、具体的な取組み、スケジュール、推進計画の作成について、6つの項目になっています。ざっと見せていただきましたが、令和2年度に策定されました小中一貫教育基本方針をもとに作られているのですね。

【永井委員】

はい。

【片山委員長】

動画内容として、まず、背景としてこういった状況があり、小中9年間の系統性連続性に配慮した一貫性のある指導、教育課程の展開が必要だということが記載されており、2番目には、小中一貫教育の目的、それから小中一貫教育と似ている小中連携教育というものがありますが、どこが共通でどこが違うかということが図で示されています。3番目に小中一貫教育により期待される効果。これは基本方針から抜粋しているのですね。

【永井委員】

はい。

【片山委員長】

4番目に具体的な取組みについての説明、5番目に今後のスケジュールとして、令和5年度、令和6年度のスケジュールが示され、6番目に推進計画作成の留意点について示されています。最後に小中一貫教育は目標を達成するために「小中で一緒に子どものことを考えよう」「9年間で育てていこう」「子どもたちに必要な資質能力を小中で積み上げていこう」というメッセージで締めくくっている、そういった内容でしょうか。

【永井委員】

はい。

【片山委員】

今、この小中一貫教育の動画配信について説明がありましたが、これについて何かご質問等はございませんでしょうか。

【何森委員】

基本方針が反映されているところは括弧付きで示されていると思いますので、それ以外がこの推進会議で検討された内容を反映しているということでしょうか、ということが1つ目の質問です。2つ目は、そうであれば、先ほどの推進会議のまとめの中で、大きな負担にならないように配慮するということを言っていたと思いますが、この件に関しましては、この会議が始まってからずっと言わせていただいていると思うのですが、それが記載されているのはどの部分なのか、全部読み切れていないので教えてください。

【片山委員長】

括弧付きで小中一貫教育基本方針より記載されている部分については、基本方針より抜粋しているということがわかるが、それ以外の部分については小中一貫教育推進会議で決まったことが反映されているような体裁になっているのか。あと「大きな負担にならないようにする」ということについて、この動画で具体的にもしもこまれているかというご質問でよろしいでしょうか。

【何森委員】

はい。

【永井委員】

基本的には、小中一貫教育基本方針から抜粋して動画を作成しています。限られた視聴時間であることを踏まえ、省けるところは省き作成しています。推進計画作成の留意点についても、この推進会議で話し合ったことを中心に入れ込んでいるということです。負担に関することについては、具体的な文言としては反映しておりません。

【松本副委員長】

この動画に関して、学校現場のほうから、小中一貫教育がまだ十分にわからない、担当者としてももっと知りたいという声をお聞きしました。また、小中の管理職の先生方より、小中一貫教育に関する説明会もしくは動画配信などできないのかという声がありました。中身に関してはまずは小中一貫教育基本方針、これをご理解していただきたいということで作成しています。この会議で話し合ったことが反映されている部分もあるが、すべて反映されているということではありません。まずは先生方に小中一貫教育とは何か、小中連携と何が違うのかということを理解していただきたいということで、20分程度の動画にまとめたところです。

【片山委員長】

この動画作成の趣旨については、小中一貫教育について理解を深めてもらうために、例えば、小中一貫教育と小中連携教育が混乱しないようにとか、そういうふうなことを目的にしているの、過去につくった基本方針をそのまま載せているわけではないということですね。

確かに2番の小中一貫教育の目的とか、図で示された小中連携教育と小中一貫教育の違いであるとか、それについては基本方針にはなかったのではないかと思います。

【何森委員】

また後で機会があるかもしれませんが、まずは意見として発言してもよろしいでしょうか。

【片山委員長】

はい、どうぞ。

【何森委員】

以前から負担が大きくならないようにと、この場でも話をさせていただいて、それはもちろんという話になっていただろうと思います。そんな中、昨年の第4回、第5回あたりの会議でそういったことを職場にきちんと説明する文書をつくってほしいと話をさせていただいたと思います。最終的にはその文書をA41枚でいただいたのですが、少なくとも、例えば私の職場でそれが説明されたということはありませんでした。その文書をもって説明したかもしれませんが、直接配付されるようなことはありませんでした。そもそもその文書の中に、働き方についてのことが書かれていないではないかという話をさせていただき、これでは不十分だという話をさせていただいていた。そのうえでの本日の会議です。その文書もつくられていない。今日の話の中にも入っていないということであれば、この動画の中にも入っていないということであれば、その部分はどこで反映されるのか思っ、意見させていただいたということです。

【片山委員長】

ありがとうございます。意見としてお聞きいたしました。
それでは、説明の5つ目、「新たな科」について、事務局より説明をお願いします。

【永井委員】

<新たな科について>

昨年度のまとめでもお伝えしましたが、「新たな科」については、知識を学ぶのではなくて探究的な学習の進め方・考え方で学ぶ内容として、教材を作成していくとなっています。総合的な学習の時間を想定してということですが、社会科副読本のようなものではなくて、学び方を学ぶものということが昨年度話合われました。課題の設定や情報の収集、整理、分析まとめ表現と探究のサイクルを盛り込んだものにしていくものと考えています。

そこに岸和田市の自然文化などの素材を十分生かしていく。令和5年、令和6年で会議体を作ってということですが、現時点でまだ会議体は作っていません。市教委の中で協議を行っているところで、全国各地で探究的な学びのガイドブックのようなものが、作成されていますので、現在それを収集したりとか、助言等をもらったりしているところでございます。今後はそういった参考資料等ももとに、また各研究部等の先生方のお力も得ながら、また学識の助言も得ながら、進めることができると考えています。

【片山委員長】

「新たな科」に関する説明について、何かご質問等ありますでしょうか。今年度は、会議体、教材作成に向けた話し合いの場の設置となっていますが、まずは先進的に進めているところの資

料などを集めているということです。教材作成に向けての会議を開くとしても、土台がないままでは前に進みにくいであろうとの判断で、ある程度イメージができるよう準備を進めているという説明がありました。これについて、よろしいでしょうか。

4. 意見交換等

【片山委員長】

先ほど各校区の取組み状況を表にして、説明がありましたが、本日は校長先生、教頭先生、現場の先生方に来ていただいています。今年度、小中一貫教育の準備は管理職の先生方を中心に進めてもらっています。

学校によっては、担当者が校区会議に参加しているケースもあります。そこで、ご自分の学校での小中一貫教育の準備状況はどういった状況か、校長先生、教頭先生にご発表いただきたいと思います。もちろん川本先生、何森先生もお気づきの点がありましたら発表いただきたいと思います。まずは、校長先生、教頭先生から発表いただきたいと思います。順番は、東光小学校、山直中学校、中央小学校の順で、桜台中学校は今年、モデル校として進めていただいておりますので、最後をお願いしたいと思います。それでは東光小学校、八幡校長先生お願いします。

【八幡委員】

取組み状況一覧表にはいろいろ記載していますが、補足も含めてもう少し紹介させていただきます。前提として東光小学校は、6年生の3割5分が岸城中、残りが光陽中という2つに分かれる学校なので、そのあたりが特徴的です。このことも踏まえお話しいたします。

まず岸城中学校区ですが、記載にないこととしては、9月末に校長が集まり、1回目の打ち合わせを行いました。現状の共有をしましたが、各校の共通の課題としましては、自己有用感やコミュニケーション力、主体性など、そういったことが共通の課題ということで話し合いました。今後どうしていくかということですが、3学期、それぞれの学校の一貫教育担当で会議を行って話をしてしています。いろいろ意見が出たのですが、資料にも記載しているように、〇〇タイムのように岸城中学校区で1つの取組みをしようと考えていますが、どの先生も同じ指導ができるようにしていかなければならないことや、小中一貫教育の担当者が、各学校の生徒指導、学力、特別支援などの小中をつなぐコーディネーター的な役割になると考えています。3学期に担当者が集まる予定になっています。

次に光陽中学校区ですが、一覧表には7月8月と記載していただいています。7月、9月と2回校長が集まり協議を行っています。まず現状を共有しましたが、光陽中学校区の実態としてスマホの使用時間がとても長いということ、学力や家庭学習の二極化、これらが特徴という話になりました。今後についてですが、まず、めざす子ども像の設定については、キャリア教育全体計画を参考にしていくのはどうかや、何か新たな取組みを生み出すのではなく、今あるものを再整理してつなげる、そういったことも大事ではないかという意見がでました。

とりあえず何ができるかなという話で、まずお互いの授業を参観しましょうということで、各校でやっている校内研究の授業を参観することから始めている。先日も東光小学校で行った研究授業に、光陽中学校の先生に来ていただき、参観していただきました。できることからやってみましょうと話をしてしています。

【片山委員長】

どうもありがとうございました。校区的に2つに分かれてしまうという学校ではありますが、以前から中学校区にあるキャリア教育を土台にしていこうという議論も進んでいるということでした。続いて山直中学校お願いします。

【西村委員】

山直中学校区ですが、山直北小学校、城東小学校、山直中学校の3校長が中心になり協議を進め大枠を決めているところです。その中で、できることから始めていきたいと思いますということで、まずは学びの土台作りを共通してやっていこうということや、授業改善のところで相互の授業参観を行っています。山直中学校には、山直南小学校の児童も入学しますので、先週、山直北小、城東小、山直南小の3小学校に授業参観に行きました。これは、一貫教育担当者が各小学校と連絡を取り合いながら調整を行いました。また生徒会がそれぞれの学校の児童会と連携し、あいさつ運動や、服のチカラプロジェクトを3小学校と1中学校で共通して取組みを行いました。今後、それぞれの担当部、生徒指導・研究・地域連携のところで、次に進めていく協議を行う必要があると考えています。山直南小とも連携しながらやっていけないと考えています。

【片山委員長】

ありがとうございました。具体的な取組みについても協議を進めている。まずはできることからやってみようかと話をされている。山直南小からも児童が入学されるということで、そのことについても配慮しながら進めておられるということでした。続いて中央小学校よろしく願います。

【田中委員】

中央小学校です。先ほど八幡校長先生からお話がありましたが、9月の下旬にブロック校長会で推進会議を行いました。各校の課題を共有しましたが、やはりコミュニケーションスキル、自己肯定感が共通の課題としてあがっています。対策として短時間グループアプローチの実施を検討しています。1月に名城大学の曾山先生を招いて研修を行う予定です。中央小学校はすでに取組みを進めているので、中央小学校の取組みを参観していただき、曾山先生のお話を伺う予定です。今後、各部会の担当者が集まり話をしていく予定ですが、現状としては、生徒指導担当者が定期的に学校をまわり、生徒指導会議を実施しています。その際、各校の担当者にも子どもの様子を見てもらうなどして、実態を共有しています。

【片山委員長】

ありがとうございました。岸城中学校区では、「〇〇タイム」といったことを実施していく。これはかねてから春木中学校や野村中学校で実施しているソーシャルスキルや人間関係作りを進めていく内容のものということで理解してよろしいですか。

【田中委員】

はい。

【片山委員長】

生徒指導担当者が定期的に各校を巡回し、情報共有するというのは、以前から実施されているのですか。

【田中委員】

今年度から実施しています。

【片山委員長】

ありがとうございました。それではモデル校区の桜台中学校区よろしくお願いします。

【池内委員】

桜台中学校区は昨年10月から管理職が集まり、小中一貫教育推進計画を作成するためにどうしたらよいか。各校の課題を話しあうことから始めました。推進計画に記載されていますが、学習面においては、計画的に学習を進めることや、主体的に学習に向き合うことに課題があります。生活面では、携帯電話等の利用時間が長いことや人間関係作り、コミュニケーション面が苦手な子どもや、不登校の子どもも多いことが現状なので、それらを改善できるよう目標を立てていきたいと思います。

ただその中で、新しい取り組みはすぐにはできないであろうということで、今やっていることをすりあわせましょうと、各学校で現在取り組んでいる年間行事をすり合わせて計画に入れていきました。その中で、お互い行き来できる授業参観や公開授業も入れるようにしました。

以前から中学校では「きてみてスクール」を設定し、校区2小学校の高学年児童・保護者にはその期間に、いつでも参観に来てもらってもいいですよと発信していました。これを1学期と2学期に設定することにし、先生方にも来てもらってもいいですよとしました。

また、小学校では授業参観を定期的に行われているので、そこに小中の教員が互いに参観できるようにお願いしました。互いに授業を参観し交流することと合わせて、小中一貫教育担当者会を設置しました。推進計画の最後に組織体制図をいれていますが、生徒指導に関する部会、学習支援に関する部会、この学習支援に関する部会については研究担当と特別支援担当に分けています。そして、地域連携に関する部会。4つの部会をつくっています。その4つの部会の中にさらに取りまとめ役を置いています。例えば生徒指導部会であれば桜台中学校首席、学習支援の研究であれば常盤小学校研究主任、支援教育は光明小学校の支援コーディネーター、地域連携は桜台中学校教頭に役割を担ってもらっています。必要に応じて、各部会の長が招集し、会議の場をもつなどしています。

3校合同研修については、これまでも持ち回りで実施していました。この間コロナ禍で途絶えていた時期もありましたが、昨年度から復活させました。3校合同になると教員数が150人前後になるので、集まれる場所も限られるし、講師も半年から1年前には調整しなければならないので計画的に進める必要があります。今年度の研修についても、昨年度から計画を立てて準備を行っていました。その中で、今年については、今回4部会をつくったので、それぞれの部会が交流できればと、教員間で交流の場も持つことができました。その際、春木中学校の先生に来ていただき、「アドジャン」を教えてください、その後、それぞれの部会で交流を持ちました。

来年度に向けては、2学期に推進会議をもち、担当指導主事にも来てもらい、方向性を検討しました。資料にも記載していますが、スリンプルプログラムを中学校が先行して進めていき、その効果を小学校に示してあげることができればと考えています。小学校間でも課題が異なるので、そのあたり難しいところもありますが、まずはできることからやってみようと考えています。資料として生徒指導部会で作成した「桜台10のスタンダード」「常盤10のルール」を配布しています。光明小については、「常盤10のルール」と同様の内容で、2小学校は共通となっています。

小中の生徒指導部会が協議を重ね、系統的なものとなるよう作成しました。研究については、各校がJKやSEなどで研究を積み重ねており、公開授業を実施する機会があったので、互いに複数の先生が参加し、各校の様子の参観や、一緒に学ぶ時間をもちました。特別支援については、支援学級在籍の6年生児童だけでなく、5年生児童も中学校の支援学級の様子について、保護者も含めて見学に来てもらい、中学校の支援学級担任が中学校での様子を説明など行いました。教頭先生には学校支援地域本部の活動を中心に地域連携の取組みを担ってもらっています。中学校は小中一貫教育における出口の時期になるので、小中一貫教育の目標と中学校の目標を一致するよう変更させていただきました。

【片山委員長】

ありがとうございました。モデル校として他の学校のモデルとなるよう取組みを進めてもらっているところです。研修時には準備や場所の設定など、さまざま課題もありますが、組織として取組みを進めておられるとのことでした。ここでも、やはりできるところからやってみようという、小中3校で協議しながら進めているということでした。

いま4つの学校から取組み状況をお話いただきましたが、ご質問等ございませんでしょうか。

【何森委員】

4つの学校からお話を伺いましたが、もしあればですが、新たに取り組むことになったことについて、人や時間をどのように捻出するのかということ、何か工夫や配慮があれば教えていただきたいです。というのは先ほどもお話しさせていただきましたが、以前の会議で事務局のほうから、これをするからこれを減らすとか、何かと何かを統一するとか、モデル校区の取組みからこれであればできるということがなければ、今後の展開がしにくくなるというお話もあった。そういうこともお伝えいただいていると思いますので、新たな取組みについて、人や時間をどのように捻出されたのかを教えてください。

【片山委員長】

新たな取組みとは、今までなかったが、小中一貫教育を進めるにあたって、新たにやってみようと思ったという意味のことでしょうか。

【何森委員】

そうですね。小中一貫教育を進めるにあたっては、当然時間も必要だろうし、人の配置も必要になるだろうし、私はこれまでも職員の働き方について申し上げていますので、特に時間や人の捻出、配慮についてあればおしえてください。

【松本副委員長】

現在、小中一貫教育を進めるにあたって、新たな取組みという位置づけでやっていないと考えます。桜台中校区も、以前から合同で実施の研修を小中一貫教育の取組みとして位置付けているイメージと思います。

ただ、よりよいものとしてくために、協議を繰り返したり、私たち市教委も支援させていただいたりしている。人的な部分については、現段階では指導主事が協議に入らせてもらっているということと考えます。何森先生がお話ししていただいたように、確かに今後新しいことに取り組んでいくとなると、そのことも考えていかないといけないと思いますが、現段階では、今やっていることを整理し、小中一貫教育の取組みに位置付けている段階なので、過度な負担にはつながっていないと思います。

今後とも、各校区において、小中一貫教育を進める中で、先生方にも負担がかからないよう進めていかなければならないと思っています。先ほどの何森先生の話につながるのですが、これまでの推進会議の内容が先生方まで伝わっていないのではないかという話がありました。少なくとも校長先生、教頭先生はわかっていますので、現在の取組みになっていると思うのですが、そこは、もう一度周知して、確認していきたいと思っています。

【池内委員】

先行して取り組んだ新たな取組みというのか、校区で課題を共有できたことは大きくて、例えば、なぜ特別支援に関する校区合同研修を2年連続行ったかという、小学校と連携する中で、特別支援に関する認識や系統性のある支援が必要と感じたからでした。

来年度実施予定のスリンプルプログラムも、小学校で子どもたちが落ち着いて話し合いができる力を積み重ねていけば、中学校でもさらに発展させ協働学習につなげ、今求められている主体的・対話的で深い学びにつなげられるのではないかと考えています。

現時点においても、すべての学校で主体的・対話的で深い学びを実践されていますが、同じような取組みで学んでいくことができれば、よりよいものになるかと考えています。情報活用能力については、常盤小では学校図書館の加配も活用しながら、教科横断的に取り組んでおられ、タブレットも積極的に活用されている。中学校では来年から入試でもタブレットを活用することにもなってきているので、必須の状態となっています。そのベースの情報活用能力は小学校から中学校へと系統的に取り組んでいくことができれば等、共通の課題も見えてきました。

それに対しては、負担のないように一緒に学び取り組んでいければなと考えています。組織的なことに関しては、先生方の負担とならないよう努めています。今年度、小中一貫教育推進会議を持ったのは2回です。その他、各部の担当者間では、電話やリモートも活用しながら、負担にならないように連携をとってもらっています。

【片山委員長】

いかがでしょうか。

【何森委員】

よろしいですか。私はもう少し単純にお尋ねしたつもりでした。例えば、各校へ授業を見に行

くなどのお話がありましたが、そういったことを実施するとなれば、その時間に子どもたちを置いていくわけにはいかないだろうし、授業を早く切り上げたのか、あるいは何か工夫したのか、それをお尋ねしたつもりでした。私の学校でいうと、職員室に人がいなくて、職員室に戻ったときに電話をとらなければならないくなってしまい、職員室から出られなくなってしまうことが起きてしまっている。そんな状態の中で、誰か人が減るといことは非常に難しいことだと思ったので、どんな体制をとったのかということを知りたかった。

おそらく、これまでできていた業務ができず、そこに行っているのだから、授業を切り上げたのか、それとも何か工夫をしたのか聞いているわけで、新たに大きなことをやっているわけではないということはわかっています。何かあればということです。

【八幡委員】

私たちの校区は、研究授業を見に行きましようかという話で動きはじめていますが、具体的にはやっぱりたくさん先生方が見に行くのは無理で、ただ岸城中学校区で中央小学校の授業を見させていただくときには、授業をカットして先生方みんなで動けるように体制づくりをしています。

【池内委員】

桜台中学校区の場合は、推進計画において、行事のすり合わせを行い、公開授業においても実施日が決定次第お知らせしている。職員には1回でも2回でも参加できるようにと、年度当初にお願いしている。

【片山委員長】

1つは、授業をカットして、多くの先生が授業を見に行くという工夫、年度当初に中学校区の年間行事予定をすりあわせ、可能な限り参加してもらおうという体制をとるという工夫などもあるのではないかというお話しでした。

小中一貫教育を進めていくうえで、確かに、時間の捻出や動ける人をどうつくっていくかということは、中学校区で複数の学校が協働してやっていく取組みからも、何かしらの工夫は必要と考えます。

今まさに、そのことを考えながら進められていると捉えています。今、何森先生がおっしゃったことはとても大切なことと思います。というのは、この取組みを長く続けていくには、こういった工夫をしていかないといけない。また、だからこそ必要性のあるものに取り組んでいく、そして無理のない体制でやっていく、それが小中一貫教育を円滑に進めていくための重要なポイントではないかと思います。

これについては、事務局中心にして各校区の工夫を発信していただければと思います。私が知るところでは、11月10日に野村中学校で実施した校内研究授業では、朝陽小学校が昼からの授業をカットして多くの先生方が野村中学校に参観に行ったと聞いています。授業時数の兼ね合いもありますが、そういったことも1つの方法として考えられるのかなと思います。そこは事務局が情報収集を行い、発信をお願いします。

【何森委員】

最後に1つ言わせてください。最初にお話させてもらいましたが、文書も十分なものがでていない、次の動画にも入っていないということで、それはおかしいのではないかと思います。ここで話し合ったことが反映されるようなことにはぜひしていただきたい。

【片山委員長】

大きな負担にはならないという部分についてですが、先ほどの各学校のご報告の中にも、再整理することや、できるところからやっていくなど、いくつかあったと思います。明確に、文書のようなものはないですが、委員会としては大きな負担にならないように、無理な取組みとならないようにと考えている。長く続けていくことを考えると、委員会として、大きな負担になるような取組を学校に求めるのは違うのではと考えます。そういった考えで、昨年度のこの場で協議を進めていった。大きな負担にはならないように進めているということは理解していただきながら、今後も十分に配慮して進めていきたいと考えています。

それでは、少し時間が過ぎてしまいました。最後に5番目、その他についてです。事務局からよろしくお願いします。

【永井委員】

今後の予定について3点お話をさせていただきます。まず1点目ですけれども、現在各中学校区で作成していただいている推進計画についてですが、2月末をめどに提出していただくと考えています。各小中学校長の先生方にその旨アナウンスさせていただこうと考えています。

2点目です。大変お忙しい中と存じておりますが、次回の推進会議については、各中学校から提出していただいた推進計画を共有できればと思っております。3月7日木曜日で考えていますが、いかがでしょうか。

【川本委員】

今のうちに、日程を言っていただけると、その日を空けることができるかなと思います。

【片山委員長】

今のうちに、日程を決めている方がいいですね。今後、あまりにも都合が悪い方が増えるようでしたら再度検討するとしたらよいのではないのでしょうか。

【永井委員】

それでは、3月7日木曜日に次回の会議を予定させていただきます。

3点目でございます。来年度、学期に1回、小中一貫教育の担当者会を持ちたいと考えております。このことについても、校長会、教頭会でもアナウンスさせていただこうと考えております。よろしくお願いします。

【片山委員長】

それでは、現時点で、次回の会議の予定は3月7日木曜日ということでお願いします。それで

は事務局お願いします。

【永井委員】

全体を通して、何かございませんでしょうか。以上をもちまして、令和 5 年度小中一貫教育推進会議を終了します。ありがとうございました。